

就職活動日誌

内定先

業種：総合商社 営業職

～就職活動の流れ～

2015年8月

- ・ 大学3年の夏休みを利用して東京で行われた同説明会に足を運ぶ。大企業が多く、意識が高そうな学生と企業の多さに圧倒される。

2016年2月

- ・ 証明写真を東京に撮りに行く（7000～9000円でお化粧品や顔の補正をしてくれる）

2月は就活の準備にインターンに行く人が多かったが自分は2つ掛け持ちしているアルバイトを全力で頑張りたいのと就活前に遊びまくっていたので特に何もしていない。この頃からベンチャー企業を受けるなど行動している人がいるので焦ってくる。何をすべきか分からなくてまずは形からと証明写真を撮った。忙しくなってから撮るよりは良かったが業種を考えてなかったのが金融機関でも使えるような固めな写真を撮ったが、後々に営業職に絞ったのでもう少し明るい雰囲気撮っておきたいと思った。

2月はインターンに行くべき？何をすべき？

私生活に余裕があるならインターンとかに行っておいて損はない。自分が興味のある仕事を体験してみて合うか合わないかをこの時期に見定めておけば3月からある程度絞ってスタートできる。

注意したいのは自分のしたい仕事と自分が向いている仕事が必ずしも合致するわけではないということ。2月は自分と見つめあい（自己分析）、インターンや業界研究で自分に本当に合う仕事探しを心がけよう。この時点で分からなくてもこのときやったことは絶対に生きてくる。

2016年3月

- ・ 3月の一週目は連日合同説明会が始まる。全部に出ようとして急に無理をした結果体調を崩してしまう。
- ・ マイナビやリクナビでプレエントリーをして個別の説明会や選考の予約をする。
- ・ 合同説明会に行きながら、各業界の個別の説明会に足を運びいろいろな業界をみるようにしていた。
- ・ 大企業の説明会に行ったが自分には雰囲気合わないと感じ中小企業に絞って説明会に行くようになる。

3月は2月から自分の中で就活に対して意気込んでいた分、無理をしすぎて体調を崩していた。焦る気持ちが先行して自分のペースをわかっていなかった。周りを気にせず自分のペースを作っていくことに専念しはじめた。週5〜7日でアルバイトを2つ掛け持ちしながら、ゼミの研究のためにインタビューなどで度々那須烏山市を訪れていた。就活事態は週に2〜3日ペースで東京に通うといった感じで行っていた。自分のやっている就活の仕方が本当にあっているか自信がなく、友達とお互いの情報交換をするようにしていた。

合同説明会は行くべき??

合同説明会は就活をこれからどうやって行けば良いかわからない場合はとりあえず足を運んでみるべき。どんな企業があるのか、自分がどの業界に興味があるのかを発見できるし、たくさんの就活生がいるので刺激をもらえる。また業界を絞った、IT業界だけの合同説明会などもあるので、業界がある程度絞れている人はそっちに行くにより意味がある時間にできる。

合同説明会に出店するのは規模によって異なる。大きな合同説明会は聞いたことのある名前の企業ばかりが集まる。中小企業にも大企業にはない面白い企業があるので、大企業の雰囲気が合わない人はそちらにも足を運ぶのもいいだろう。

2016年 4月～5月

- ・ 個別説明会（中小企業と大企業も多くある）と選考（中小企業）がメインになってくる。
- ・ 大企業の場合はESやウェブテストであしきりがあるのでひたすらPCに向かう
- ・ 3月に行った個別説明会の選考が入ってきたりする。
- ・ ESや履歴書を書き東京に通う日々。
- ・ 5月くらいに営業職が自分に合っていると感じ絞っていく

個別の説明会に行くと同説明会よりも詳しく話を聞けるので企業に対するイメージなども変わってき、企業理念や社風なども体感できる。午前中に東京の選考や説明会に行って、夕方急いで宇都宮に帰宅し、そのままアルバイトをしていた。週に何度も東京に通うので、青春18切符を使うなど工夫をしていたが、交通費が重なるのでアルバイトをしながらの日々だった。

個別の説明会は平均どのくらいいいかげいの??

就活の進め方も何個の企業の説明会に行くかも人それぞれ。週4で東京に通う人もいれば、もう少し企業を絞って週2～3日の人もいる。業界が決まっている人は業界トップからどんどん挑戦していく人もいる。数をこなしていきたい業界に果敢に挑戦する人と、自分の行きたい企業を絞って一つ一つ丁寧にこなしていく人とここからタイプが分かれる。

周りの人との付き合い方はどんな感じになるの??

周りの友達と情報交換をすることは大切。周りを気にしなさすぎると大事な情報を聞き漏らして損をする可能性もある。

人生がかかっていると感じる就職活動は普段仲良しの友達同士であってもピリピリしてしまうもの。自分のことをいかに客観的にみるかが大事になってくる。自分の就活と友達の就活を比べて良いや悪いと考えるのではなく、あくまでお互い息抜きや両者のためになる情報交換に努めるべし。

また、就活によって普段と性格が変わってしまう友達が出てくる場合もあるので、あ、忙しくていっぱいなんだなと軽く流したり、程よい距離を置いたりして自分の就活以外にストレスを抱えないようにしましょう。

2016年 6月

- ・ 第一志望の企業から第一号として内定を頂く（不動産のベンチャー企業）
- ・ 自分の周りも内定をもらった人が増えてくる
- ・ 内定をもらってからは2~3社ほどに絞ってまだ続いている企業だけ就活を続ける
- ・ 内定先の企業は無期限で待ってくれるということで就活は続けた

自分の希望の会社は会社理念社風ともに自分とマッチしていると感じたのと、選考が6次まであって1回1時間以上じっくり話合ったので気持ちは固まっていた。企業からも第一号として内定を頂いたので自分としてはいったん就活が落ち着いた。

しかし両親が東京のベンチャー企業に対してよく思っておらず、石川に帰ってこいといわれた。両親へのメンツもあるので石川の企業で東京にも会社がある企業を探し受けてみることにした。その間は内定先に事情を説明して待ってもらっていた。

内定は早くもらった人が優秀なの??

そんなことはまったくない。企業によって選考の進め方や時期が異なるので、早ければいいということはない。早く決めて終わらせたところで本当に自分が働きたいと思える企業なのか、実際に働いて続けていけるのかまで考えていないと就職した後に後悔することになるだろう。

就活は誰のためでもない、自分のためなので、人とは比べず自分これからの人生のビジョンを考えて行動していくべきである。

2016年 7月

- ・ 7月前半は志望の会社から内定をもらったことで就活を一時少なくする
- ・ 石川の企業を2社ほど受けていく
- ・ 自分の人生がこのまま東京のベンチャーでいいのか考えるようになる
- ・ 7月中旬に内定先からもっと様々な企業をみたあとで入社を考えてもよいといわれ再度就活を始めようと決意

自分では納得したはずだったが、東京のベンチャーで自分のやりたいことはできるが、将来に対して不安もたくさんあった。キャリアセンターや友人、周りの大人など様々な人に相談をした。多くの話を聞いた結果、不安を抱えている以上このままでは納得できないと感じ、再び就職活動を行うことを決意した。

やりたい仕事で完全にマッチしている企業があるのに入社を否定する両親に対しても、本当にその会社に入るのならばできる限りの就活をしてからなら説得できると考えるようになった。

2016年8月

- ・ アルバイト三昧と就活の悩みが重なったのでリフレッシュしに軽く旅行に行く。
- ・ 商社やメーカーを今まで受けてこなかったが自分に向いていることに気づき受け始める。
- ・ 将来子供を産んでも仕事を続けるなどの条件をたくさん考えると大手企業が浮かび上がり、8月から受けようとしたが大手の求人はとても少ない
- ・ 総合商社を2社受けて1社は3次までいったがすでに採用が充足していて、人材としてはほしいがもう人がいっぱいなので落とされ悔しい思いをする

8月になり、悩みに悩んだ末に自分の人生設計をもう一度考えなおした。内定をもらっているベンチャー企業では結婚や出産に対して制度がまだととのっておらず、不安が大きくなった。自分のやりたいことをできて、理想のキャリアを積める会社ではあったが、それは今の自分の感情だけで考えている部分が大きいと気づいた。10年後20年後の自分の人生を考えたときに、難しくなってくると考え始めた。

8月になると大手企業の説明会や選考がほぼなくなる！？

8月になると大手企業はすでに内定が出ている会社もあるので、説明会自体少なくなってきた。大手を全く受けず、大手にしておけばよかったとこのころに後悔してももうチャンスは少ない。有名なメーカーなどはこの時期になると無理に等しい。残っているのは半導体の会社など全体的に人気の少ない会社か、中小企業になってくる。

大手企業を知りもしないのに最初から避ける人がいるが、大手企業の良さもあるので、一度しかないチャンスを逃さないほうが後から後悔しないだろう。

2016年9月

- ・ 9月3日に内定先の不動産のベンチャー企業の人事と社長らとともにごはんに行く
- ・ 9月中旬くらいに総合商社から内定をもらう。
- ・ 母親からここまで粘って就活をしたのだから何も言わない、自分で決めなさいと言われる。
- ・ ベンチャー企業と総合商社と迷った結果に、総合商社に入社を決める。

不動産のベンチャー企業の人事や社長から猛烈に入ってほしいと飲みの席で言われる。自分を必要としてくれる気持ちは本当にうれしかったが、まだ迷いがあり、そのときは何も言えずに帰宅する。もう一つの総合商社から内定をもらったときに、ある程度女性の制度が整っているのと、私の性格を生かせそうな実力主義の社風、全国展開している規模に現実味を感じた。結果、2か月ほど待ってもらっていたベンチャー企業をけて、総合商社に入社を決めた。両親も納得してくれ、自分も会社にたいして大きな期待はないが、自分らしく働けると、将来性があるということで異論はなかった。

就活はみんないつまで続けるの!?

早い人は6月くらいで終わるし、遅い人は11月まで粘る人がいる。第一希望から内定が出て終わる人もいれば、何個か内定を頂いてから一番いい企業を選ぶ人もいる。中には就活がうまくいかずに、ずっと内定がなく10月も説明会に行く人もいる。人それぞれなので、平均とかいうのは気にしなくていいと思う。

私の周りは9月まで続いている人は少なく、一人で就活をやっている気分だった。しかし中にはまだ一つも内定がないという人もいたので、就活が計画通りにいかないものだと考えていたほうが気は・楽だろう。

～おまけ～

大手企業に内定をもらっている人が実践している ES の書き方！？

ES は志望動機や学生時代に頑張ったことや趣味など、企業によってさまざまな項目があるだろう。その内容について人事の興味を引くための簡単なポイントがある。

ポイント 1

ES は自分がどういうことに興味があって何をしてきたかという自分の説明書である。端的に言うと **自分を多角的に表現すること** が興味を持ってもらえるポイントなのである。

人事にもいろいろなひとがいて、さまざまな視点から見るため、どこで「おっ！」となるかはわからない。そのため、**ES のすべての項目で違う自分をできるだけ魅せること** が重要なのである。

例えば、学生生活で頑張ったことを自分の専門研究だとする。次に趣味や特技について
かく欄には、旅行やスポーツなど学生生活で頑張ったことで書いたこと以外のことを書く。

とっても簡単なポイントだと感じただろう。本当に簡単なことである。それぞれの項目で新しい自分の一面を魅せることで、どこか一つでも人事の目にとまり、「コイツおもしろいな」「珍しい趣味を持っているな、もっと聞いてみたいな」など、人事も実際に趣味としてスポーツをしていたら共通の話として盛り上がるかもしれないし、何が引っかかるかわからないのだから、**引っかかりをたくさん作っておくのである。**

ポイント 2

ポイント 1 で全体の流れはわかったと思う。二つ目は、**何を伝えたいのかを明確にすること** である。業界や企業の理念ごとによって ES は書き換える必要がある。

どんな人材を求めているかを見つけ出し、どうやって自分を魅せるか、が一番のキーポイントである。例えばメーカーや商社の営業では、明るく人当たりがよく、ハキハキと積極的な人材やきつい仕事でも耐えられる精神面の強さ、何度も立ち上がれる打たれ強さを持った人材が求められる。そこに自分がまじめにコツコツと取り組むことが強み、という風に持ってきてしまうと、人としては立派なことだが少し違ってくることがわかるだろう。

またここでコツがあるのだが、必ずしも**学生時代に頑張ったことを全部同じに書かなくてよい**。これはほかの項目にも勿論いえることである。つまり、企業が求める人材というのはアピールするためにどんな自分を魅せるかという点を重視することで、内容も変わってくるということである。

上の営業の例につなげるとするならば、学生時代頑張ってきたことを「まじめに勉強し

てきたということではなく、ゼミ生同士の意見がぶつかり合いどうしようもなくなったときに、自分が仲介役を買って出てみんなをまとめ、その結果ゼミの雰囲気がとてもよくなり、外部での発表もみんなで一致団結してグランプリを勝ち取ることができた。」というように内容をかえて自分の強みを「明るい性格でみんなを巻き込み、良い方向へ導くリーダーシップがある」という風にするができる。

面接はどうすればいいの!?

私は面接が得意であった。なぜなら自分の学生生活において聞かれたことを 100 パーセントで受け答える自信があったからである。一時間以上人事と語り合う面接も何度もあったし、面接の時間が 16 時からであれば 20 分前に出向いて、早めに面接を行いより多くの時間を確保することに努めていた（一対一の面接の場合）。

相手の目を見て、すぐ答えられなくても自分の思いをしっかりと伝えることが大切である。強い気持ちは態度や話にでるし、人事は一発でわかるのである。

グループ面接ではどういう人材が求められているか、ということを考えて行動しよう。リーダーシップがある人か、まわりの意見を尊重できる人か、斬新な考えを出せる人か、企業はさまざまな視点からみている。自分的には自信があっても、企業が求める人材とマッチしなかったら落とされることも普通にある。その場合は自分の性格はこの企業とあつてなかったと割り切れればいい。落ちる数や内定をもらう数が人を判断するわけではない。

大事なのは自分がどこでどんなビジョンで働きたいか、である。それを相手に伝えてマッチした企業に行けるようにたくさん数を受けるだけの話である。

終わりに、..

就活は不安になるし、どうすればいいかわからないし、何が正解か誰も教えてくれない。

そうといって自分の主観だけで周りを全く見ないというのも問題である。

面接で人事が聞きたいのは、この不安やストレスをどうやって解消しているか、である。就活はストレスや疲れがたまり、それが何か月も続く。これをどうやって発散させて就活できるかというところにヒントがあるだろう。ちなみに私はアパートで一人酒をすることがストレス解消法で、面接で勇気を出して言ったところ人事の反応が良かったので乱用したというのはここだけのはなしである。

私の就活の話はここまでとして、自分の性格と向き合い、自分の就活スタイルを見つけてください。きっといい結果になるでしょう。頑張ってください。